

大坂にて有名の義太夫語り豊竹小鞆太夫（木村
 弥七）は同所御霊社内の操座へ出勤し打つゞき
 評判よかりしが二月廿四日午後芝居も勿て小鞆は
 便所へ至りし折現れ出たる武智光秀（テハナイ）
 一人の男が手拭にて面部を包み白刃を携へ日頃
 の恨み思ひ知れと肩先四五寸切付て倒す処
 を左の腕を打落し猶数ヶ所を手を負せ跡
 白浪と逃失たり此物音に一座人々其場へ欠
 付太夫のさまを見るよりも其騒動大かたならず
 相手は誰と手負に問へば口じや梶徳と云ひしのみ
 終にはかなく息絶ければ其趣を訴へける右梶
 徳といへるは梶村与兵エと云て御霊操座の道具方
 にて昨年迄勤め居しが去冬小鞆は紀州へ雇れ
 一座不残連行しが梶徳のみを残し帰坂の後以
 前の如く彼者を雇ひけれ共紀州行に除れしを
 根に持て出勤を断りしが夫亦遺恨ならんか
 との風説也梶徳は猶小鞆が生死を聞定めんと
 芝居の床下に潜み居しが終に顕れのがれ
 難きを知り自殺して果たりといふ